

兵庫支店 BB 販売 PT 西グループ

須磨移転に合理性なし

会社に移転の白紙撤回を要求

要 求 書

会社側は白紙撤回を拒否

当労働組合は、昨年9月に会社側(兵庫支店)から提案のあった兵庫支店ソリューション営業部ブロードバンド販売PT西グループの、須磨別館ビルへの移転計画について、これまで4回の地域交渉(対兵庫支店)を積み重ねてきました。

会社側は、今回のロケーション見直しは「効率的なエリア販売を進める」ためとし、「マーケットの中心地へ事務所を移転することにより移動時間のロスを減少させることによりユーザ訪問件数の増をはかる」ことを目的と説明してきました。

しかし須磨別館は交通の便が悪く、西エリア(兵庫区、長田区、須磨区、垂水区、西区)ユーザへの移動時間ロスの減少にはつながらないことは明白であるにもかかわらず、移転計画を見直ししようとはしていません。

この会社側の態度に対し、当労働組合は2005年1月、別記のように、須磨ビル移転計画の白紙撤回を要求する要求書を提出しました。

これに対し会社側は「白紙撤回はしない」と口頭で回答してきています。

貴支店から2004年9月13日に提案のあった「ブロードバンド販売PTのロケーション見直し」について、提案いらい数次にわたる団体交渉を行ってきた。

貴支店が提示した「ロケーション見直し」の理由は「効率的なエリア販売を進める」ためとされ(9月13日付提案書)「効率的なエリア販売」については、「マーケットの中心地に事務所を移転し移動ロスの減少を図ることにより訪問件数増を図っていく目的」(10月13日付回答書)との見解が示された。

当労働組合は、「神戸の地形と交通網の特殊性から、須磨別館への移転では会社がいう移動ロスの減少さらには販売件数の増加に結びつかない」と主張し、そのことを各交通機関のダイヤをもとに立証してきた。

そのため、団体交渉において会社側は、「須磨別館」移転の合理性を説明できず、当労働組合の指摘に、数次にわたって回答を保留している状態である。

「須磨別館」への移転は、会社目的から見ても何ら合理性を持たないことは、当労働組合が団体交渉において指摘してきたとおりである。これ以上この問題で検討や協議をすすめることは時間とエネルギーの浪費であり、企業業績の向上に貢献しないことは明白である。

よって、当労働組合はブロードバンド販売PT西グループの須磨別館移転計画をただちに白紙撤回することを要求するものである。 以上

西N関労第61号 2005年1月26日
西日本電信電話株式会社兵庫支店
支店長 戸谷典嗣 殿

西日本NTT関連労働組合
執行委員長 島本 保徳

尼崎市議選（6月5日投票予定）に 「つづき徳昭」さんを推薦



兵庫県尼崎市の市議会議員選挙は今年5月29日告示、6月5日投票が予定されていますが、当労働組合は、はたらく仲間の候補「つづき徳昭(のりあき)」さんを推薦し当選めざしてたたかうことを決定しました。

つづき徳昭さんのプロフィールは以下のとおり。なお、つづき徳昭さんから推薦にたいするお礼のメッセージが寄せられました。

つづき徳昭さんからのメッセージ

ご推薦ありがとうございます

労働組合が労働組合らしさを失い、その存在価値自体が見えません。かつて到達闘争といわれ賃金や労働条件の引き上げを目ざし、労働組合が競った時期がありましたが、今は「逆」到達闘争で低い方へ低い方へと私たちの生活条件が切り下げられています。そうした中で、自らが立ち上がり闘う労働組合を結成し、働くものの不満や怒りを汲み上げ、労働運動の再生を目指し闘う、N関労の皆さんのご推薦に心よりお礼申し上げます。

尼崎市も全国の自治体同様、多くの財政赤字を抱え苦しんでいます。今までのように私たちが納めた税金が不要不急の公共事業に使われるのではなく、暮らしに役立つような使われ方がする政治に転換していきたいと思います。開かれた市政・開かれた議会を目指し頑張ります。ご支援をよろしく願います。

つづき 徳昭

プロフィール

1953年、高知県長岡郡大豊町に生まれる。
1971年、高知県立高知東工業高校を卒業、住友精密工業入社。
1977年、日本社会党に入党。
1996年、新社会党尼崎総支部結成に参画。
1999年、新社会党尼崎総支部副委員長に就任、現在に至る。

「みちと環境の会」運営委員、尼崎市立武庫東中学校教育友会会長、武庫地区小中学校連合育友会会長。

「つづき徳昭と歩む会」事務所

尼崎市武庫之荘東1丁目28-1

Tel/Fax 06(4962)5551

川柳に見る職場の世相

今年も、ある生命保険会社が「サラリーマン川柳・100選」を発表していますが、私は当初より本を買って読んできました。(1987年から川柳募集始まる)

その時々の中での動きや、サラリーマンの嘆きなど、読んでいてスッキリする川柳や、なるほどという川柳が多くありました。

今回の100選の中で、職場を語っている川柳では「成果主義 最終評価は 好き嫌い」「ノー残業 お持ち帰りで フル作業」がありました。

少し振り返ってみますと、「窓際族」や「リストラ」の言葉が多くあり、三年前のNTT11万人退職・再雇用を思い出します。

1996年には「昇給という 人参食って 腹下す」。1997年には「どんな事されても辞めれぬ NTT」という川柳をメモっていました。会社やその上司に対する怒りや愚痴と賃金に対する不満が増えてきたように思います。

「宝くじ 当たれば辞めたる この会社」

「サラ川」愛好家